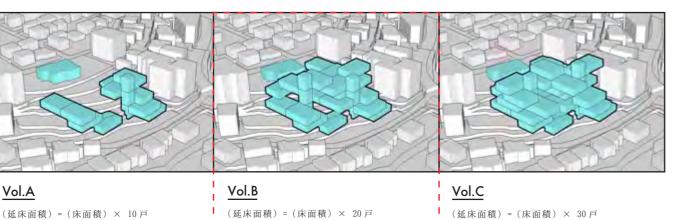


ボリューム検討

国分寺市の都市計画で定められている容積率(200%)の範囲内でどのようなボリュームが敷地 に相応しいか模型と 3D モデルを作成し検討した。計画の主旨に照らし、農地は有効面積と捉え て床面積相当に算入した。



= $150m^2 \times 10 \overline{p}$ = 1,500m² ··· ① (農地面積) = 1,124m² … ② ① + ② = $1,500m^2 + 1,124m^2 = 2,624m^2$ = $2,624m^2 \div 4,136m^2 \times 100\%$

= 63.4%

= $150 \text{m}^2 \times 20 \ \overrightarrow{\bowtie}$ = 3,000m² ··· ③ $3 + 4 = 3,000m^2 + 2,149m^2 = 5,149m^2$ (容積率) = 2,624m² ÷ (敷地面積) × 100% 【 (容積率) = 5,149m² ÷ (敷地面積) × 100% 【 (容積率) = 7,274m² ÷ (敷地面積) × 100% = $5,149m^2 \div 4,136m^2 \times 100\%$

= $150 \text{m}^2 \times 30 \ \overrightarrow{\text{p}}$ = 4,500m² ··· ⑤ 5 + 6 = 4,500m² + 2,774m² = 7,274m² = 7,274 $m^2 \div 4$,136 $m^2 \times 100\%$ = 175.8%

R1 2F

(農地面積合計) = $2,774m^2$ = 840.6 坪

 $(1 \text{ 坪} = 3.3\text{m}^2 \text{ 当 た b の 収穫量}) = 200 個$

840.6 坪 × 200 個 = 168,120 個 (※4ヶ月サイクル)

… 1年間で収穫できる量

- 国 分 寺 崖 線 -1日当たりに変換すると、

国分寺崖線と呼ばれる斜面地周辺は、住民の生活 の変遷とともに自然環境と歴史・文化が重なり合っ た独特かつ豊かな環境を形成してきた。古来よりそ の地形によって生まれた湧き水によって人々の生活 空間として利用されてきたが、高度経済成長期以降 の急激な市街化に伴う宅地開発などの影響により、

133.1ha(約80%)が生産緑地に指定

○国分寺崖線下の地域では、斜面緑地を背景とした

「都市環境の根幹を成す農地は国分寺市の貴重な社

という基本方針を掲げ、農業に様々な機能をもたせ

国分寺市の農業に関する都市計画では、

ることで市を活性化させる要素としている。

市民に向けて安心・安全な食料の提供や

市民の楽しみの場や多様な交流を育む場

レクリエーション・コミュニティ機能

子どもたちをはじめ幅広い人材を対象として

大規模災害時の避難空間や大規模火災の延焼

都市にやすらぎと潤いを与え国分寺市らしい

国分寺市「都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」

歴史・文化的な空間を表現する

農作物活用による地域活性化等

畑地の景観が特徴

- 都 市 計 画 -

会資源」

生產機能

教育機能

防災機能

防止など

参照)

pp. 21, (2009-3)

景観形成機能

農業を通じた育成の場

崖線本来の地形や湧水、雑木林は失われていく傾向 にある。本研究では、崖線を環境面での保全対象と して捉え、周辺地域の再興を目指し研究を進めた。



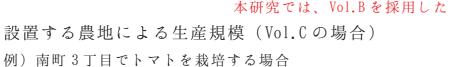
- 野川 -

武蔵野台地の南端を流れる野川は国分寺市に源流 を有し、国分寺崖線下に沿って、小金井市・三鷹市 ・調布市・狛江市を貫流し、世田谷区で多摩川に合 流する全長約 20km の一級河川である。

かつて小金井市の野川沿いは田んぼが広がり、国 A 分寺崖線の湧水や森林等により湿地や植生帯など多 様な自然環境が広がっていた。現状では沿川の市街 化や土地利用の変化により、国分寺崖線同様、自然 環境の多様性は大きく損なわれている。





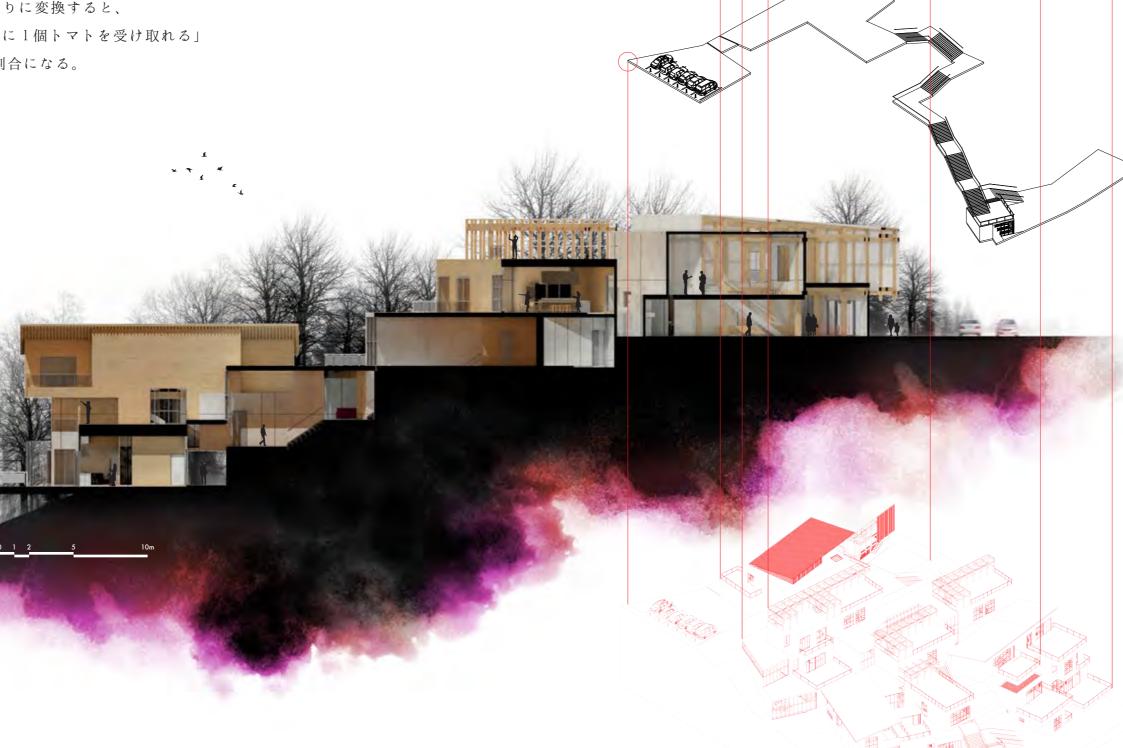


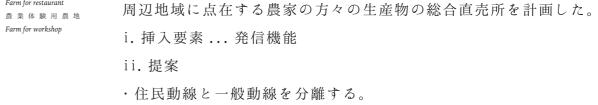
(人口) = 3,194 人

168,120 個 \times 3 サイクル = 504,360 個

504,360 / 3,194 人 = 約 158 個

「2~3日に1個トマトを受け取れる」 という割合になる。





・直売所を設ける。ただし、可動式のユニット建築とし需要に応じて変化 できるものとする。

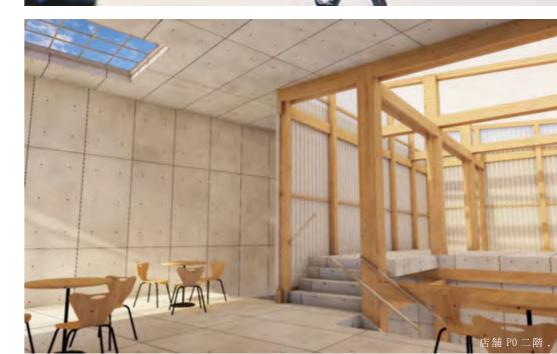
対象敷地内にある既存住宅を本研究の集合住宅のエントランス及び店舗に

コンバージョン利用する。店舗には、本研究における新たな住人および、

・農地とそれに付随する飲食店舗を設ける。

店舗





集合住宅

従来より、日本の伝統的な生活に欠かせない農業。そこでは家と農地とい う物理的に隔たれた環境での生産活動が行われていた。本研究では、人々 が主として活動する空間に生産機能をもたせることを試み、それと同時に、 中心市街地における集合住宅の新たなあり方を考察した。

i. 挿入要素 ... 生產機能

ii.提案

・全住戸に南向きの農地を設ける。

・玄関から農地へと続く土間空間を設ける。

・土間に面してキッチンを設ける。

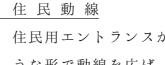
・住民が利用することのできる、共用のラウンジ及び、それに付随する調 理場を設ける。

・屋上農地にはプランターを設置する軸組を設ける。





動線の分離



住民用エントランスから斜面を覆うよ うな形で動線を広げ、全通路には屋根 を設けた。動線上には、住民用ラウン ジと共用で使用することができるキッ チンスペースを計画した。



一般動線

斜面地である対象敷地の上下 14mの高 低差を繋ぐ動線を設けた。イベント用 広場と直売所を介して、国分寺駅方面 と住宅地を貫く動線を生み出す。





